

新国語I

四訂版

●編修委員●

佐伯 梅友（国語学者）
 広末 保（国文学者）
 金谷 治（中国哲学者）
 外山滋比古（昭和女子大学）
 長谷川孝士（兵庫教育大学）
 青木本寛哉（元 秋川高校）
 奥平 卓（北海道情報大学）
 松本 悦治（元 前橋高校）
 深雪 和男（三重大学）
 森 健（法政大学女子高校）
 桑原 博史（筑波大学）
 山本吉左右（和光大学）
 松浦 友久（早稲田大学）
 糸井 久（国立高校）
 小山 清（広島大学付属高校）
 真田 信治（大阪大学）
 三省堂国語教科書編修部

○表紙絵／有元利夫 厳格なカノン（1455×970mm、1980年）
 ○口絵（長江）撮影／岩谷徳光 ○目次・タイトル／岩波亮平
 ○本文写真／岸 哲男・高梨 豊・ロバート・バカー・APN・オリオン・ボンカラー・家の光協会・共同通信 他
 ○カット／瀬川康男・とよたかずひこ

●初版印刷——平成3年3月25日
 ●初版発行——平成3年3月30日

●定価——文部大臣が認可し官報で告示した定価
 （主部の定価は、各教科書取次供給所に表示します）
 ●著作者——新国語編修委員会
 代表者 広末 保、金谷 治ほか14名（別記）
 ●発行者——東京都千代田区三崎町二丁目22番14号
 株式会社 三省堂
 代表者 守屋真明
 ●印刷所——東京都八王子市石川町2951番地9
 三省堂印刷株式会社
 代表者 石川信之
 ●発行所——〒101 東京都千代田区三崎町二丁目22番14号
 株式会社 三省堂
 電話 編集：（03）3230 9411 販売：（03）3230-9412

昭和62年3月31日
 文部省検定済
 平成2年3月31日
 改訂検定済

（15 国I 116）

略称 03四訂新国I

新国語I

四訂版



三省堂

「くれる」と「もらう」——留学生に日本語を教えて

佐々木 瑞枝

山川に 風のかけたる しがらみは^①

流れもあへぬ もみぢなりけり^②

新入生のジョージが、皆に百人一首の中の一音を黒板に書いて説明している。なかなか堂々たる風格で、日本語の説明さえ聞かなければプロフェッサーのようだ。彼の専攻は確か中国文学のはずだったが、日本の和歌にも関心があるらしい。テリトリーの広い人だ。

「ジョージ先生、私が授業をさせていただいてもよろしいでしょうか。」

「ジュアー、ミセス・ササキ。」

ジョージの書いた黒板の字は、とても芸術的で味わいがある。最近の書道展には絵に近い文字も多い

ようだから、ジョージの文字も高く評価されるかもしれない。

ジョージと席は入れ替わったものの、皆の心は、この魅力的な和歌にくぎづけのようで、さてどうしたものやら。

実は今日ここで「授受表現」の授業を展開するはずだったのだ。さっきジョージに「させていたいて——」とわざわざ使ったのもその導入部分のつもりだったが、皆の心はまだ「風のかけたる しがらみは——」に向いたままである。

無理もない。窓の外はすっかり秋の気配である。開いた窓からは冷たい空気といっしょに、カサカサと木々の葉を揺らす風の音や、虫の音のシンフォニー^③が忍び込んで来るのだ。

「先生、私たちが『流れもあへぬ もみぢなりけり』に連れて行ってあげますか。」とマリッサ。

「もちろん連れて行ってあげますよ。でもあなたが聞く時は、『連れて行っていただけますか』のほうがいいわ。」

偶然だとしても、何と勘のよいマリッサだろう。この南米から来た少女には私の気持ちが読めるのだ

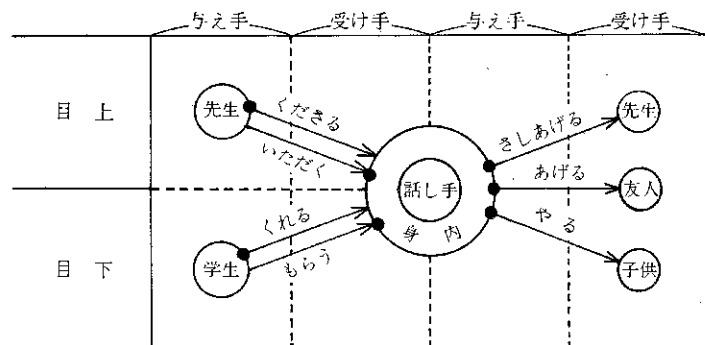
① 流れをせき止めるため、くいを打ちわたして、木の枝や竹などを横に絡ませたもの。

② 流れようとして流れられない

で止まっている。

③ 小倉百人一首のこと。奈良時代から平安時代にかけての、優れた百人の歌人の歌を一首ずつ集めた歌集。撰者は藤原定家。歌がるたとして親しまれてきた。「山川に……」の歌は、春道列樹(?)の作。

教授。④ (territory) 領域 分野。⑤ (sure) いさですと。⑥ (symphony) 交響曲。



【表】 ●は主語 (例えばクダサルなら目上の与え手が主語)

方法が違うということとはわかってもらえるのだが、「くれる、もらう、あげる」の違いを飲み込ませるのは容易ではない。チョコレート^{チョコレート}の箱を移動させながら、学生たちに文章を作らせると、珍文、奇文が飛び出す。

「マリッサはぼくにチョコレートをやりました。」
「ジョージはマリッサにチョコレートをくれました。」
「あなたは葉^はさんにチョコレートをくれました。」
特に「くれる」と「もらう」はチョコレートは同じ方向に移動するのに、視点を相手に置き「あなたが」と言えば「くれる」、
「私が」と自分に視点を置くと「もらう」となるところが間違えやすい。

「(私が) あなたにもらった。」
「(あなたが) 私にくれた。」

また、日本語では身内、つまり自分の家族や親類を自分の立場と同様に考えるから、次のような文に意味上の違いが出てくる。

15

10

5

「これは、自分がだれかにあげる時。では表を見てください。」
表の説明をしながらも、外国人が間違えるのも無理な
と思う。「くれる」が「くたさる」、「もらう」が「いた
だく」というように、目上の人と同等の人とは表現の

先生にさしあげる。
友人にあげる。
子供にやる。

「日本語で『Give』を言おうとしても、相手と自分の
関係がはっきりしないと、言うのが難しい。黒板を見て
ください。」

10

5



「日本語」の授業での筆者(正面左)と留学生たち

a 「ジョージは弟にカメラをくれた。」
b 「ジョージは弟にカメラをあげた。」

a の文は、弟とは私（話し手）の弟である。なぜなら「くれる」は他者が話し手（身内）に何かを与える場合だからである。しかしb の場合は弟とはジョージの弟になる。（本来の日本語では「弟に……あげる」とは言わないが、最近の慣用を反映して、このように簡略化して教える日本語教科書も多い。）いくら涼しい秋の夕方とは言え、「ブライアンは葉さんにチョココレートをもらいました。」「葉さんはブライアンにチョココレートをあげました。」と三十分も続けていると、皆頭がぼうつとしてくる。

「皆頭がよいですね。この表現を覚えてお祝いにチョココレートを食べましょう。」
そう言って箱を開けた時には、三十分間もあつちの手からこっちの手へと移動し続けたチョココレートは、おいしいブランドーの香りを放ちながらメロメロに溶けていた。

「先生、私たちをいつ連れていってくださいますか。」

マリッサは、黒板に消されずに残っている和歌の一首にそれほど強い印象を受けたと見える。

「先生に連れていっていただく。」

「先生が連れていってくださいさる。」

ブライアンがうれしそうに歌いながら言う。

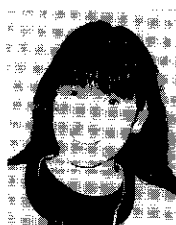
こんな光景、つまり山を流れるせせらぎに紅葉がはらはらと散り、そして、赤や黄の葉が流れをせき

止めているような、そんな光景をどこかで見た気がするけれど、それがどこだったか思い出せない。

「皆でいっしょに行きましょうね。」とは言ったものの、これは難題である。

ジョージ先生、あなたにも責任の一端はありますぞ！

（「留学生と見た日本語」による）



佐々木 瑞枝 一九三二（昭七） 日本語教育学者。京都府の生まれ。著書に、「日本事情」「日本語らしい日本語」などがある。

学習

たちの実際の使い方を調べてみよう。

課題

- 1 筆者が初めに、「させていたいて——」（三・六）と表現した意図はどこにあったか。また、この表現についてどのように感じるか、話し合ってみよう。
- 2 「私の気持ちが読める」（三・一三）とあるが、それは具体的にどのようなことか。
- 3 「授受表現」について、きみたちの家族や周りの人

◎注意する語句

102 風格 専攻 103 くぎづけ 105 視点 身内 106 慣用 簡略化 107 難題

◎新出常用漢字

103 魅 偶 勘 105 珍 106 香 溶